



よろしくお願ひします ~支部・BL長の抱負~



大津支部長 村田 健二
(株)村田自動車工業所 代表取締役

今年度のテーマは「人を生かす経営の実践で、企業と地域の発展を!」です。キーワードは、「人」と「社会」です。同友会で学び、人を生かす経営を実践し、強靱な企業づくりと地域社会の発展に努めます。

第一に、経営指針の成文化運動を推進します。第二に、社員共育を推進します。第三に、障がい者や児童養護施設の子供達の就労支援、南比良同友の森の活動、中小企業振興に関する取り組みを推進します。若い役員力を結集し支部を活性化していきたいと思っています。宜しくお願いいたします。

高島ブロック長 川原林 弘康
(株)社川原林工務店 代表取締役

本年度の高島ブロックのスローガンは「指針経営で、よい会社をめざし、よい経営者になろう!」とさせていただきます。同友会活動と自社経営を不離一体と捉え、経営指針の作成や実践、人材

の採用や育成、人が育ち地域課題の解決に役立つ企業づくりなどについて、同友会らしく謙虚に学ぶため、誰でも楽しく参加できるような雰囲気をつくり、着実に仲間を増やしてまいりたいと思いますので、皆様のご協力の程よろしくお願ひいたします。



湖南支部長 北野 裕子
(株)エフアイ 代表取締役

支部運営を自社の経営と置き換えて活動を考えますと、自分自身が活性化されビジネスの可能性が広がり、結果として同友会の3つの目的「良い会社」「良い経営者」「良い経営環境」に繋が

る事に気付きました。具体的な活動としては、①例会不参加の会員訪問 ②充実した新入会員オリエンテーション、いずれも月1回設けることです。会員の皆様に同友会の良さをより知って頂き、共にこの激流の社会を乗り越える企業として、この同友会ネットワークを活用できると良いですね。

甲賀支部長 川崎 博治
(有)ワークロード 代表取締役

甲賀支部を設立して3年目になります。設立時は勢いに乗って一気に会員数を60名、70名…にするぞ!そんな支部づくりを思い描いていましたが、落ち着いた今、あらためて「甲賀らしい!」支

部づくりの基本方針に沿って、経営指針の成文化と実践の推進とあわせて、会員一人ひとりの夢や理想と経営課題や悩みを本音で話しあい、支援しあえる暖かくて親身な支部づくりを目指して行こうと思っています。宜しくお願いいたします。



東近江支部長 嶋田 裕士
(有)島田家具工芸 代表取締役

今年度、東近江支部では会員各位が「同友会の三つの目的」の実現を目指し活動します。景気の浮き沈みが激しいこんな時代だからこそ、「良い会社」「良い経営者」「良い経営環境」を

目指すという同友会三つの目的を意識することがいかに大事か明らかです。各位が切磋琢磨してその目的を学び各社で実践し、地域の見本になるような企業になり学びの輪を広げ、支部の基本方針及び計画が達成できるように努力します。

北近江支部長 青柳 孝幸
(株)PRO-SEED 代表取締役

今年度より北近江支部、支部長をさせていただきます(株)PRO-SEEDの青柳孝幸です。「明るく、楽しく、熱く 同友会理念の実践を通じてより良い企業づくりを」をスローガンに明るく楽しく、そして

経営者同士が熱く経営について語り合い、同友会理念の実践(指針経営・社員共育を中心に)を通じて学び合う支部づくりを目指していきたいと思ひます。特に、彦根地区の会員増強を最重要課題とし、北近江支部会員数100名を目指していきます。



第38回定時総会が開催されました



DOYU NOW

2016年度滋賀同友会のスローガンは「指針経営の実践で強靱な企業づくり 頼れる企業を目指そう!」です。ところで、頼れる企業とは、具体的にどう言うことでしょうか? 頼れるの主語は、社員、地域の人々、仕入先、顧客などでしょう。社員にとって、頼れる企業とは、財務、経営状況が安定していて、経営者も社員に対してパートナーとして対等な立場で接してくれるなどでしょう。もちろん一人一人の社員にとつての頼れるには様々な思いがあるかもしれません。地域の人々、仕入先、顧客もそれぞれの状況の中で、企業に求めることはさまざまでしょう。彼らの頼れるをしっかりと理解することがまず必要だと言えます。では、逆に企業にとって頼られる、ことはなぜ必要なのでしょう。言うまでもなく、社員、地域、仕入先、顧客に頼りにされない、どうでもいと思われたい会社に明日はありません。彼らの支えによつてのみ企業は成り立っているからです。もし社員や、地域社会を見下したり、欺いてでも自社(経営者)の利益を優先させるような姿勢ならば、大企業と云えども存在が難しいことは三菱自動車や東芝の例が示しています。本当は企業が、社員や地域を頼りにしているのかもしれない。



指針経営の実践で 強靱な企業づくり 頼れる企業をめざそう!!

二〇一六年度、滋賀同友会は「人を生かす経営」の総合実践、経営指針に基づく企業づくり、二、地域や社会の要請と企業づくり、三、中小企業の発展を支える同友会づくりを三つの柱として取り組んで参ります。

第一の柱では、「経営指針を創る会」に「実務化コース」を開催し、経営指針書を発表して社内でも共有し実践する企業づくりを進めます。

また、同友会型企業のモデルとして「滋賀でいちばん大切にしたい会社」の認定を進めることで、指針経営推進の目標が見えるようになります。

支部を中心に学び合う例会では、会員企業の経営実践報告の作り込み力を入れ、例会を通じて会員相互の学び合いと育ち合いが促進されるようにいたします。

全県的な学び合い活動の集大成として、第二十七回滋賀県経営研究会を十一月十五日(火)に開催します。

社員との共育を進めるために、新入社員、中堅社員、幹部社員、後継者など階層別の研修会を行います。経営者と

幹部社員が共に育つ場として「経営共育塾」を行うと共に、全社員を対象にした共育会で、理念共有を補完するツール「月刊・共育ち」の活用を広めます。

第二の柱では、二〇一九年に滋賀で開催する「第二〇回障害者問題全国交流会」に向けて、地域で働き・暮らすことができる社会づくりのため、

多様な雇用、求人・採用・共育を一体として進めると共に、就労困難者の支援、職場体験学習・インターンシップ、大学のキャリア教育にも取り組めます。

「アベノミクス」のトリクルダウンによる経済政策では地域の景気は良くなりません。地域経済を担う中小企業にフォーローの風を吹かせる環境をつくるため、「中小企業憲章」の国会決議や「中小企業振興基

本条例」の制定と推進に向けて、行政と力を合わせてまいります。

第三の柱では、第一・二の柱を推進するエンジンとなる強くて大きな同友会づくりを指します。支部活動の活性化を図るため、支部例会の相互乗り入れによる活動交流と同友会らしい例会の作り込みを共有します。新会員を会の主人公になつてもらうオリエンテーションの開催。次代を担う青年経営者を育成する青年部活動の強化。新たな支部を

目指す彦根ブロック等の活動強化。組織建設を系統的・戦略的に担う事務局活動の強化等を通じて、社会の要請にこたえる同友会を目指してまいります。

「人口減」「消費税増税」「市場の縮小」など、中小企業にとつて厳しい経営環境だからこそ、「人を生かす経営」を具現化し「地域と共に歩む中小企業」として「社員の力を存分に引き出し」、世の中から必要とされる企業をめざしてまいります。

滋賀県中小企業家同友会 2016年度役員名簿 (敬称略・順不同)

No.	理事會	氏名	会社名	社内役職
	相談役	岩部 英世	法面プロテクト株	取締役
1	相談役理事	坂田 徳一	坂坂田工務店	代表取締役
2	代表理事	藤山 孝夫	滋賀建機株	会長
3	副代表理事・総務担当	宮川 卓也	宮川パネ工業株	会長
4	副代表理事・例会組織活性化委員長	井内 良三	株タオ	代表取締役
5	副代表理事・新産業創造委員長	坪田 明	大津発條株	代表取締役社長
6	副代表理事	永井 茂一	株ピアライフ	代表取締役
7	高島ブロック長	川原林弘康	株川原林工務店	代表取締役
8	大津支部長	村田 健二	株村田自動車工業所	代表取締役社長
9	湖南支部長	北野 裕子	株エフアイ	代表取締役社長
10	経営労働委員長	服部 兼一	服部コンサルタント事務所	代表
11	ユニバーサル委員長	田井 勝実	滋賀ビジネスマシン株	代表取締役社長
12	青年部幹事長	石川 朋之	株HONKI	代表取締役
13	中間協青年部連絡会担当	藤山 啓介	滋賀建機株	取締役本部長
14	甲賀支部長	川崎 博治	株ワークロード	代表取締役
15	東近江支部長	嶋田 裕士	株島田家具工業	代表取締役
16	経営研究会担当	藤山 大輔	滋賀建機株	専務取締役
17	政策委員長	高橋 信二	NPO法人就労ネットワーク滋賀	スーパーバイザー
18	北近江支部長	青柳 孝幸	株PRO-SEED	代表取締役
19	共育委員長	小田柿喜暢	大洋産業株	代表取締役
20	専務理事	廣瀬 元行	滋賀県中小企業家同友会	専務理事
21	事務局長	大原 学	滋賀県中小企業家同友会	事務局長
1	会計監査	青木 孝守	株あくり進学	代表取締役
2	会計監査	前出 博幸	前出産業株	代表取締役

ユニバーサル委員会

分科会前半は「人が輝けば企業が輝く!〜働く人の個性が力に〜」をテーマに、(株)駒月の岸村源治社長を迎えて講演を実施しました。また、働き暮らし応援センターの平尾志津江さんからは、熱い思いを受けての初めての障がい者採用、現在働いている社員たちの働きぶりの紹介、苦労や学び、共に働く中での本人や職場の変化、今後の課題をわかりやすくお話し頂きました。後半は岸村社長に加え、働き暮らし応援センターのお二人にも参加頂き、初めて障がい者を雇用したときのエピソードや会場からの質問にもお答え頂きました。障がいを持つ人を採用・雇用するには、先入観を持たずにまずはやってみる、そして人には必ず適材適所があることなど学びの多い分科会となりました。(岩泉匡洋 記)



経営労働委員会

経営労働委員会の主催する「体験! 経営指針を創る会」分科会では、本会「経営指針を創る会」の最大の特徴である受講生とOB団(創る会卒業先輩経営者)による本番ながらのディスカッションを傍聴してもらいました。受講生役が課題シートの発表の後OB団役から矛盾点に対する質問やチグハグな解答に対する指摘を行ない、受講生自信の内面に意識を向け、心の奥底にある本音を引出し、経営に対するぶれない軸(信念)を経営理念として確立していく有様とおして、参加者に同友会の推進する「指針経営」の本質の理解と「経営指針を創る会」の基本精神を体感してもらった分科会となりました。(服部兼一 記)



総会 分科会 ご報告

例会・組織活性化委員会

東近江支部の例会委員 有本忍さんから、例会のバラエティに富んだ報告者について「この人の話をあのの人に聞いて欲しい。」というポイントのイメージで人選しているとのことでした。次にご報告いただいた東近江支部の組織活性化委員長 山田竜一さんは、委員長になった三年前は得意の営業手法を駆使して率先垂範で増強に当たり大きな成果を挙げ、次年度からは他の委員が山田さんのやり方を真似てそれぞれ動いてくれるようになったとのことでした。最後にご報告いただいた湖南支部北野裕子支部長は、180名の会員をお客様ではなく社員と捉えることにより、支部長の仕事が大いなる会社の経営の練習になると気づきより積極的に取り組めるようになったということでした。(井内良三 記)



共育委員会

共育委員会では、現在同友会で発行している「月刊・共育ち」を使用した体験学習を行いました。参加は28社29名、その中でこの「月刊・共育ち」を購入されているのは6社です。体験学習では、アイスブレイク、輪読、個人感想、グループ討論、発表までを順序立てて体験していただくと共に、それぞれの意味合いや進め方を随時解説。また、司会者や経営幹部への注意点なども説明されました。最後の質疑では、同友会メンバーによる出張指導や他社との共同勉強会開催などの提案や要望がありましたので、共育委員会として取り組んでいく方向です。経営理念の共有を補完する社員共育ツールとして「月刊・共育ち」の活用を、是非!(小田柿喜暢 記)

